

米国カーボンブラックメーカー Sid Richardson Carbon, Ltd.の 持分取得について

2018年6月26日

東海カーボン株式会社
代表取締役社長 長坂一

はじめに

当社は、本日（6月26日）の取締役会にて、Sid Richardson Carbon, Ltd.及びその関連会社2社を子会社化することを決議し、持分譲渡契約を締結いたしました。今後契約手続きを進め、競争法に基づく関係当局の承認に係る手続き等に入り、最終的な株式取得完了日（クロージング）は2018年9月上旬を見込んでおります。

本件は、中期経営計画T-2018の成長戦略の一環として掲げてきた戦略投資であり、特にカーボンブラック事業の非アジア圏進出によるグローバル生産・販売体制の確立の意義がございます。

本資料は、本件の背景、当社の狙い等につき、補足して説明するものとして準備いたしました。ご理解の一助となれば幸いです。

なお、こちらに掲載されている経済情勢、製品の需要動向等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としており、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

案件概要

買収対象

米国に本社を置くカーボンブラックメーカー
Sid Richardson Carbon, Ltd. (SRC社) と
その持分を有するグループ会社2社

取得価額

341億円*

資金調達手法

銀行からの借入を予定

*1ドル110円で計算しております。また、実際の取得価額は契約に定める株式取得実行時の価格調整を実施した金額となる予定です

本日の説明骨子

1 Sid Richardson Carbonについて

2 北米のカーボンブラック事業環境

3 当社中長期戦略

4 本件の意義（まとめ）

1

Sid Richardson Carbonについて

2

北米のカーボンプラック事業環境

3

当社中長期戦略

4

本件の意義（まとめ）

Sid Richardson Carbon, Ltd. (SRC社) の概要

会社名	Sid Richardson Carbon, Ltd. (SRC社)
設立年月	1993年2月 (創業は1947年)
拠点	本社 : Fort Worth (テキサス州) 生産拠点・年産能力 : Borger (テキサス州) 170KT Big Spring (テキサス州) 115KT Addis (ルイジアナ州) 155KT 研究所 : Fort Worth (テキサス州) 販売拠点 : Akron (オハイオ州)
業績	2017年12月期 (実績) : 売上高311.9百万米ドル EBITDA37.6百万米ドル 2018年12月期 (計画) : 売上高386.6百万米ドル EBITDA50.0百万米ドル
従業員	約350名
事業概要	ファーネスブラック の製造・販売・研究開発

SRC社の沿革

1947年	西テキサスKeystoneガス油田開発の目的で創業
1948年	テキサス州Odessaのチャンネルブラック工場を買収
1961年	テキサス州Big Spring工場を建設
1970年	ルイジアナ州Addis工場を建設
1972年	テキサス州Fort Worthに研究所を建設
1986年	Phillips Petroleumよりテキサス州Borger工場を買収

米国内のカーボンブラック生産能力

- 米国No.1サプライヤ
- 大手タイヤメーカーが集中する米国に3工場保有

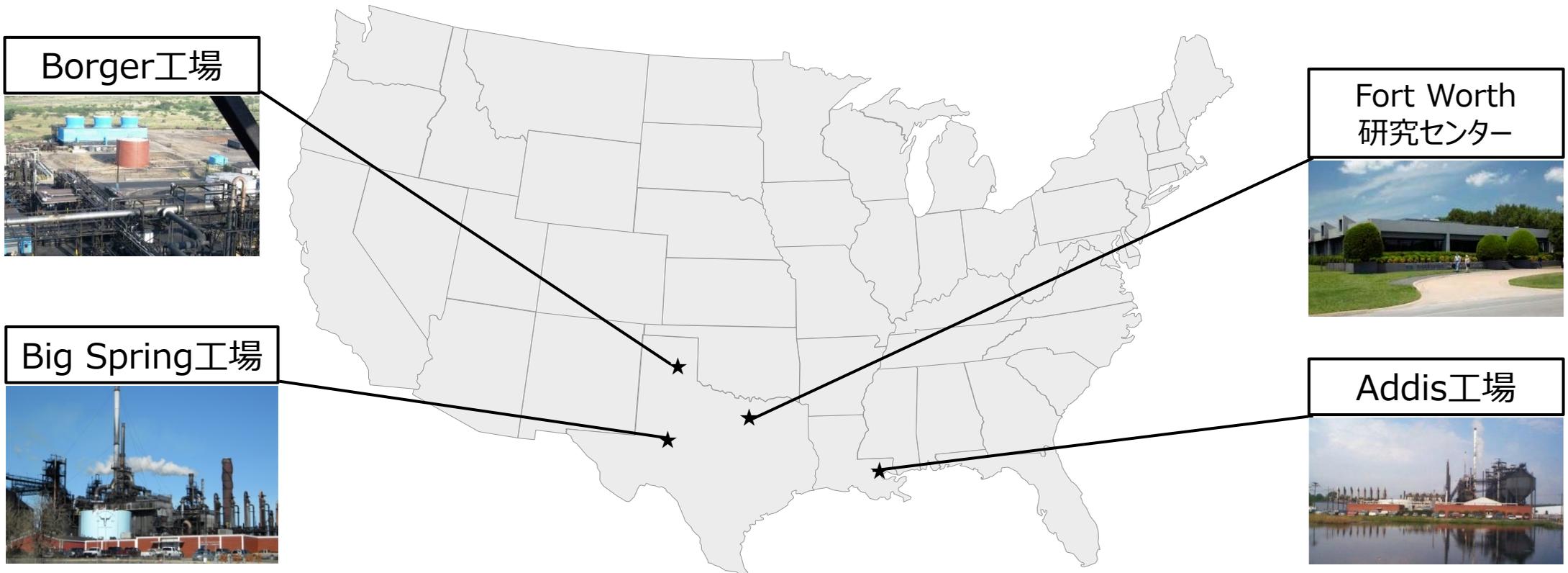
(千トン)

	会社名	米国 年産能力	米国 工場数
1	Sid Richardson Carbon (SRC社)	440	3
2	Cabot	380	3
3	Orion Engineered Carbons	370	4
4	Continental Carbon (CSRCグループ)	305	3
5	Columbian Chemicals (Birla Carbon グループ)	230	2

*カーボンブラック協会データ及び当社推定値。Continental Carbon, Columbian Chemicals はそれぞれCSRC, Birla Carbonの子会社

SRC社 特長

- 重要市場である米国に3工場と研究所を展開
- Bridgestone, Michelin, Goodyear, Continentalなどの大手タイヤメーカーとの優良な顧客基盤
- 最先端設備による世界トップレベルの効率生産体制
- 軽質原料油の使いこなし技術保有



1 Sid Richardson Carbonについて

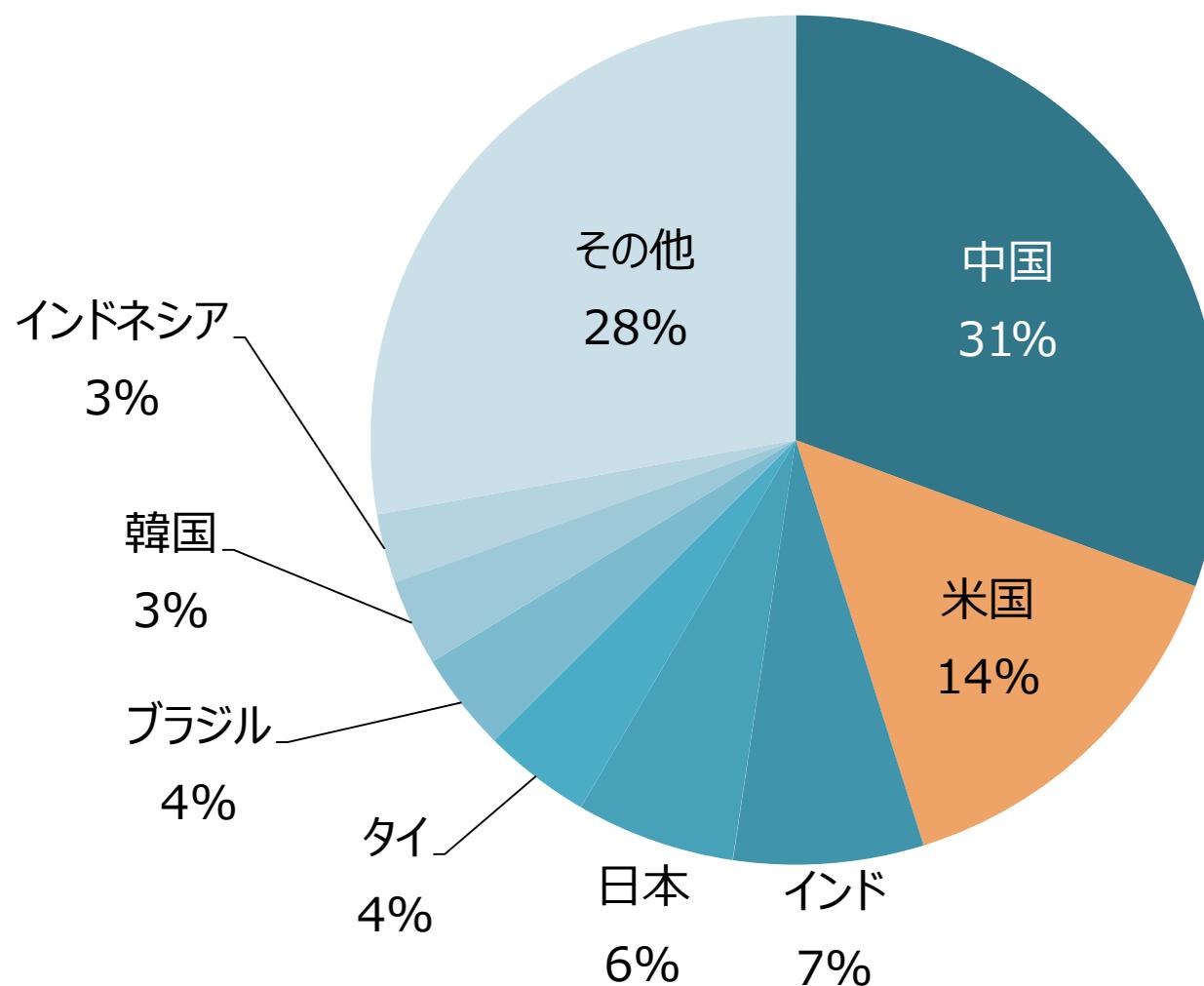
2 北米のカーボンブラック事業環境

3 当社中長期戦略

4 本件の意義（まとめ）

米国の市場規模は世界第2位

- 市場規模
(金額ベース/2016年)

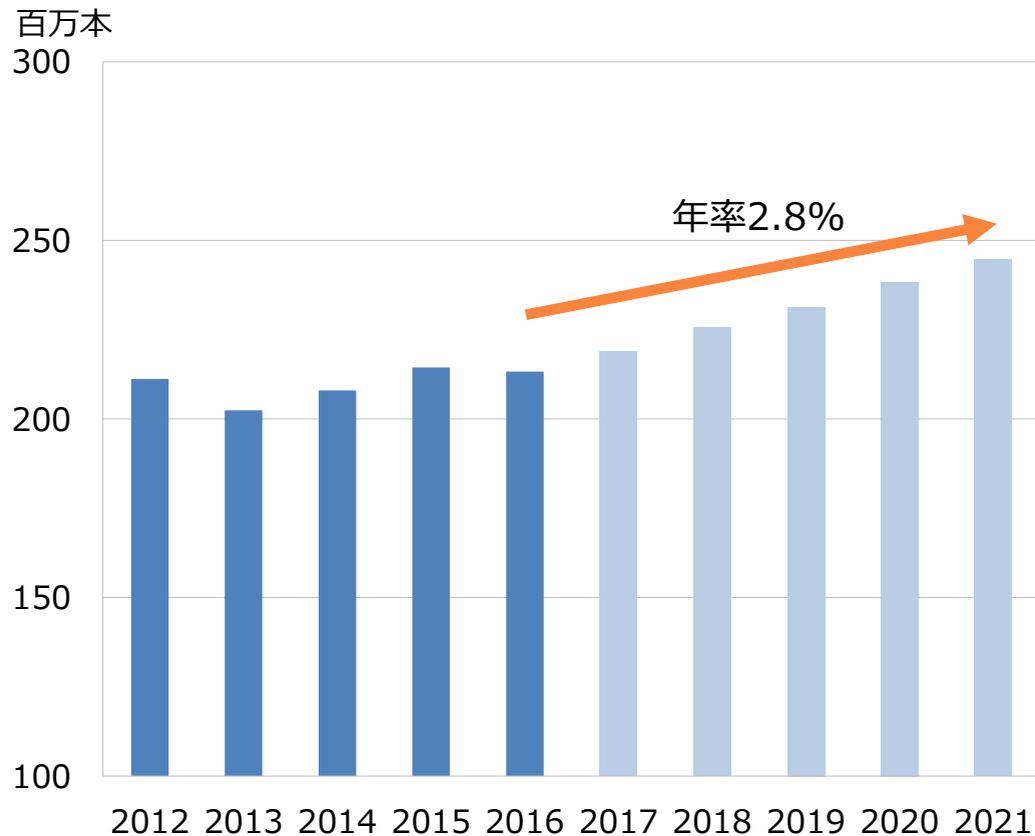


*弊社推定

北米におけるタイヤ生産量の見通し

- タイヤメーカーの投資計画も数多く公表されており、5年間の成長率（予測）は年率約3%

■ タイヤ生産量の見通し（北米）



*弊社推定

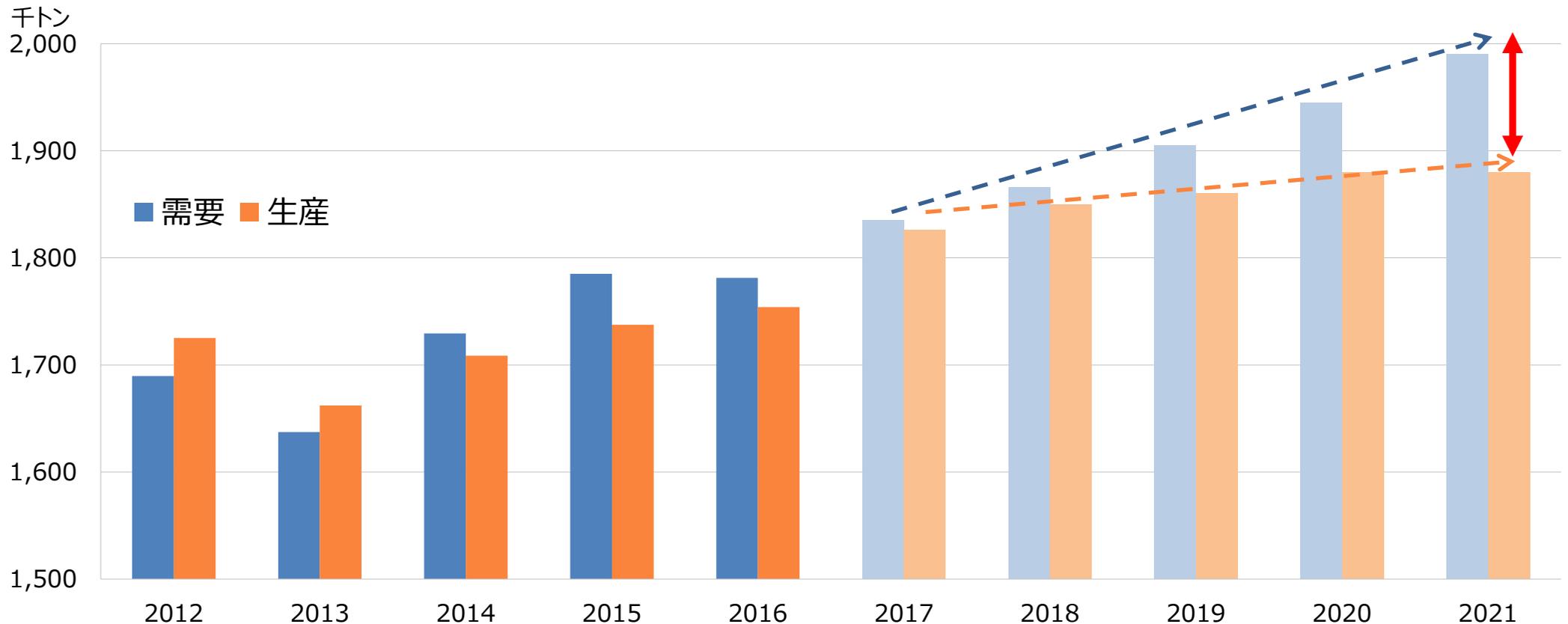
■ 北米におけるタイヤメーカーの主な設備投資計画

会社名	本拠地	金額 (百万USD)	時期
Continental	ドイツ	1,400	2019-2022
Wanli Tire	中国	1,000	2020-2025
Hankook Tire	韓国	800	2016-2018
Giti Tire Group	シンガポール	560	2018-2019
Qingdao Sentury	中国	530	2019-2023
Michelin	フランス	510	2018-2020
Continental	ドイツ	500	2014-2021
Bridgestone	日本	344	2016-2026
Goodyear	米国	300	2018-2020

北米における需給見通し

- 北米において需給ギャップのプラス幅は拡大していく見込み
 - ✓ 需要は堅調に伸びる一方、生産は頭打ちとなる見込み

■ 北米のカーボンブラック需給バランス



*弊社推定

参入障壁の高い北米カーボンブラック市場

■ 環境規制の強化の流れ

- 2007年、EPA（米国環境保護庁）は大気汚染防止法にもとづき、米国に拠点のあるファーストブラックメーカー5社に対して、環境基準を満たすための設備投資（排ガス洗浄装置など）を要求
- 2013年11月にCabot、2015年3月にContinental、2017年12月にSRC社・Orion・Columbianと制裁金や設備投資の水準などに関して合意
 - ✓ SRC社 制裁金：999千USD(2018年)
環境対策費用：約490千USD（2018年～2021年）
追加設備投資：約100百万USD（2018年～2023年）

(リンク) <https://www.epa.gov/enforcement/sid-richardson-carbon-and-energy-company-clean-air-act-settlement>

米国におけるカーボンブラック工場新設は事実上困難

1 Sid Richardson Carbonについて

2 北米のカーボンプラック事業環境

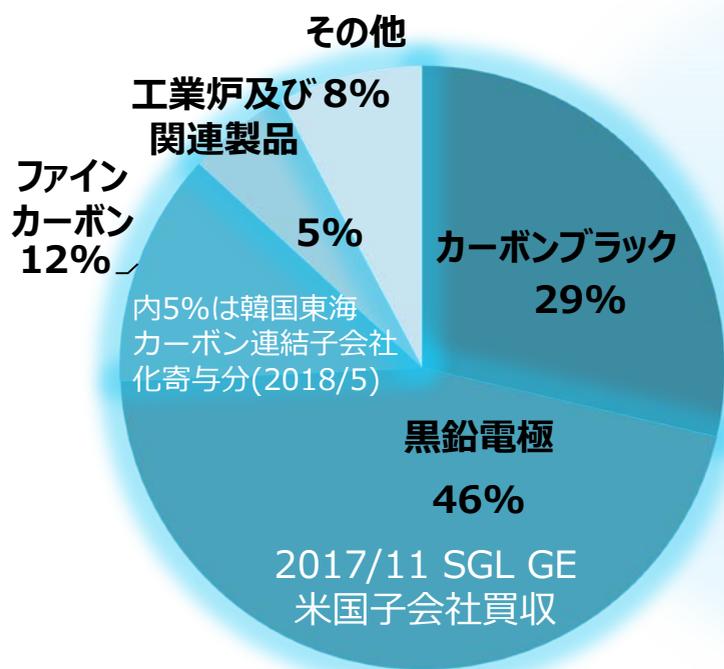
3 当社中長期戦略

4 本件の意義（まとめ）

中期経営計画における位置づけ

成長市場への積極展開・M&A投資で事業拡大

2018年度売上見通し
(本件前)



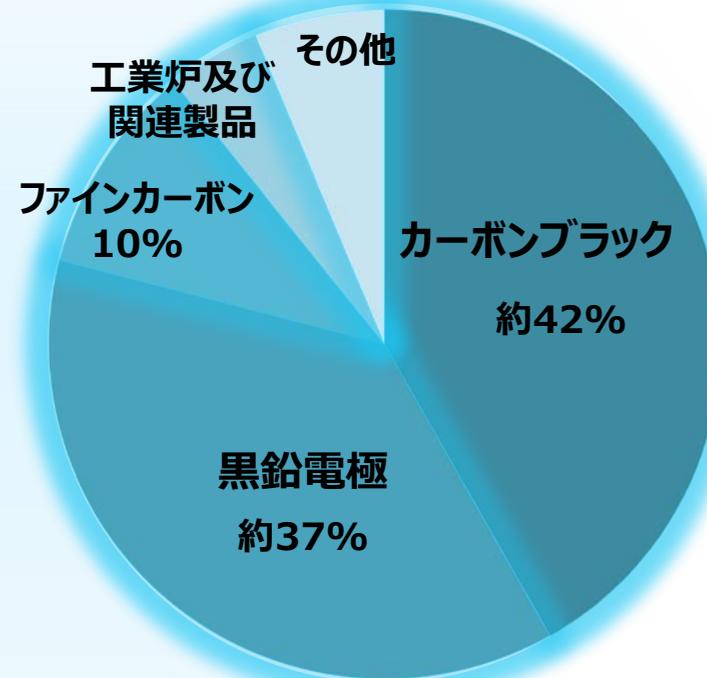
2,040億円

成長市場への積極展開
高補強、大粒カーボンブラック
開発推進



M&A 投資
(自動車・電子関連)

通年換算の売上イメージ*
(本件後)



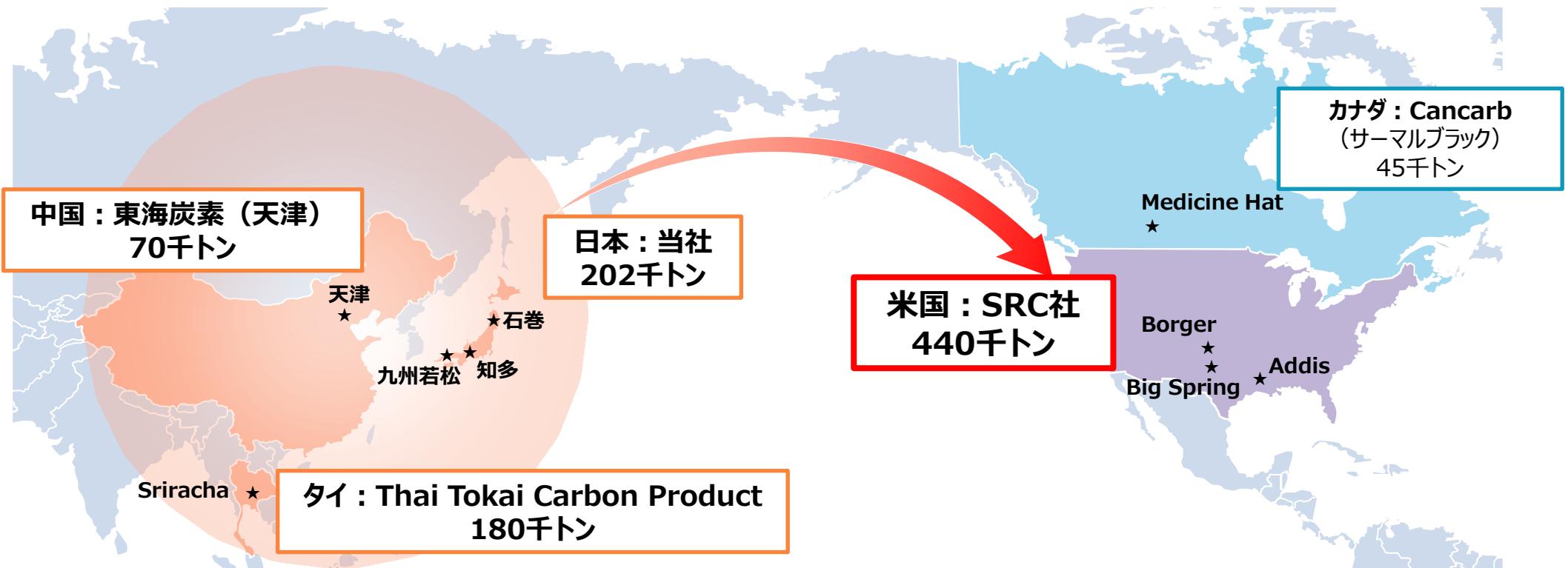
約2,500億円

*単純合算の値。実際には2018/12期についてはクロージング以降の期間のみ売上高に寄与

カーボンブラックの事業領域拡大

- 従来はアジア展開に注力。アジアにおけるリーディングカンパニーの地位を確立
- 事業領域拡大には非アジア市場への進出が必須（地産地消が基本の製品）
- 特に北米は、日系タイヤメーカーも多く進出する需要堅調な重要マーケット
 - ✓ サーマルブラック*では、2014年にカナダ/Cancarb買収により北米進出

■ 当社カーボンブラック事業のグローバル展開状況



*サーマルブラック：天然ガスが原料。ファーネスブラックと比べると粒径が大きいのが特徴。自動車部品などゴム関連製品に利用

1 Sid Richardson Carbonについて

2 北米のカーボンプラック事業環境

3 当社中長期戦略

4 本件の意義（まとめ）

グローバルプレーヤーとしてのプレゼンス確立

- 本件により、多国展開CBメーカーとして、実質世界第4位の地位確立

(千トン)

	会社名	本拠地	工場数	年産能力
1	Cabot	米国	19	2,130
2	Birla Carbon	インド	17	2,010
3	Orion Engineered Carbons	ルクセンブルク	14	1,295
4	Black Cat	中国	8	1,145*
	東海カーボン+SRC社	日本+米国	9	937
5	China Synthetic Rubber Corp.	台湾	8	810
6	OMSK Carbon	ロシア	3	500
7	東海カーボン	日本	6	497
8	Longxing Chemical	中国	3	495
9	Phillips Carbon Black	インド	4	472
10	Sid Richardson Carbon (SRC社)	米国	3	440

*カーボンブラック協会データ及び当社推定値。Birla Carbonには子会社のColumbian、CSRCには子会社のContinentalを含みます

*Black Catは中国のみでの生産。実質の生産量は不明

歴史ある2社の融合

2018年 本件



Sid Richardson Carbon, Ltd.

- 70年超の歴史
- 米国No.1の生産能力
- 米国の優良な顧客基盤

1986年 Borger工場（テキサス）買収

1972年 Fort Worth（テキサス）に研究所建設

1970年 Addis工場（ルイジアナ）建設

1961年 Big Spring工場（テキサス）建設

1948年 カーボンブラック事業参入
（工場買収）

1947年 油田開発で
創業

1941年 日本初のファーンレスブラック製造
（九州若松工場）

1918年 東海電極製造株式会社として創立

2000年 【タイ】 Thai Tokai Carbon Product
経営権取得（2017年に完全子会社化）

2004年 【中国】 東海炭素（天津）設立

2014年
【カナダ】 Cancarb買収

1979年 石巻工場稼働

1962年 知多工場稼働



東海カーボン カーボンブラック事業

- 事業領域のさらなる拡大を志向
- 約80年の歴史
- 日本No.1の生産能力
- アジア中心の安定した顧客基盤

本件の狙い

カーボンブラック事業領域拡大

- 非アジア市場への進出
（中期経営計画方針）
- グループ売上増に貢献
- 成長セクターである
自動車関連事業の拡充

北米市場獲得

- 堅調な北米市場とりこみ
- 欧米大手タイヤメーカーとの
接点拡大

成長戦略投資

事業領域拡大による
収益基盤の安定化・
企業価値向上

- 本件により、実質世界第4位の
地位確立
- タイヤ、ゴム製品メーカーへのグローバル
な供給体制を整備

- 顧客の多様なニーズにマッチする
特殊グレードの供給
- 最先端設備による高効率生産
技術
- 軽質原料油使用技術の共有

グローバルプレイヤーとしてのプレゼンス確立

技術シナジー

今後のスケジュール・業績への影響

日程

- 取締役会決議日：2018年6月26日
- 契約締結日：2018年6月26日
- 株式取得完了日：2018年9月上旬見込み
- 本日程は2018年6月26日のものであり、今後の競争法に基づく関係当局の承認に係る手続き状況、その他クローリング条件充足等の事情によっては変更になる可能性があります

業績への影響

- 2018年12月期連結業績に与える影響については、今後精査を行い、業績予想の修正等、開示すべき事項が発生した場合は、速やかに開示いたします

将来の見通しに関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。

実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本件に関する連絡先
経営企画室 初鹿野 TEL 03-3746-5228

参考資料 グローバルプレイヤーとしてのプレゼンス確立

- 本件により、実質世界第4位のグローバルトッププレイヤーとしての地位を確立

- 主なファーンレスブラックプレイヤーの拠点状況と生産能力（本件後）*

会社名	本拠地	拠点状況					生産能力	
		中国	アジア	北米	欧州	その他	工場数	年産能力 (KT)
Cabot	米国	○	○	○	○	○	19	2,130
Birla Carbon	インド	○	○	○	○	○	17	2,010
Orion Engineered Carbons	ルクセンブルク	○	○	○	○	○	14	1,295
東海カーボン+SRC社	日本+米国	○	○	×→○	×	×	6→9	497→937
China Synthetic Rubber Corp.	台湾	○	○	○	×	×	8	810
Black Cat	中国	○	×	×	×	×	8	1,145
OMSK	ロシア	×	×	×	×	○	3	500
Longxing Chemical	中国	○	×	×	×	×	3	495
Phillips Carbon Black	インド	×	○	×	×	×	4	472

*生産能力及び拠点状況については本件のクロージングを前提としており、生産能力については弊社推定値かつ既存の生産能力を単純合算したものととなります
また、Birla Carbonには子会社のColumbian、CSRCには子会社のContinentalを含みます

